

令和3年度ふくしま市産官学連携プラットフォーム

外部評価委員会報告

例年、本プラットフォームの外部評価委員会について、会議形式で年1回開催をしておりましたが、令和3年度外部評価委員会については、昨年引き続き今般のコロナ禍の状況を鑑み、下記の通り書面開催で実施しました。

令和3年度外部評価委員会の開催

開催月

3月

開催方法

書面会議

議題

1. 令和3年度事業の実績報告について
2. 令和3年度決算の見通しについて

提出方法

配布賛否意見書に回答や意見を記載し4月18日（月）までにメールにて返信。

その他

この外部評価のご意見を事務局にてまとめ、次回の連携推進会議に提出。

外部評価委員会 構成員(令和2年度～令和3年度)

外部評価委員会	会社名	役職
伊藤 翼 様	株式会社 いちい	取締役 管理本部長
佐山 充 様	とうほう地域総合研究所	編集長兼上席研究員
加藤 貴之 様	社会福祉法人 多宝会	理事長
渡辺 あゆ美 様	株式会社 ふくしまキャ リアナビ	専務取締役
山崎 麻弥子 様	三育保育園	園長

賛否：議題1及び2共に5名全員賛成

(1)令和3年度事業の実績報告について (賛) ・ 否

(2)令和3年度決算の見通しについて (賛) ・ 否

ご意見

・コロナ禍において、様々な活動を行っていただきありがとうございました。学生や、私たち事業者にとっても勉強になる活動だったと思います。特に、産官学連携フォーラム『福島から脱炭素で夢の扉を開く』ではコーディネーターの田中副理事長を中心にパネリストの皆様と議論することで、福島の現在と未来の形を一緒に考えることができました。

大学生による地元企業の魅力発信事業では、実際に弊社の店舗に来ていただき学生が弊社の従業員にインタビューする形式で映像コンテンツを作成していただきました。弊社の担当者がその学生の卒業生だったこともあり、その映像を作る過程でお互い学び合う光景をみることができました。この企画ならではの距離感や地元色を表現することができたのではないかと思います。

その他の事業については、書面上でしかわかりませんが木幡市長が参加する機会が多く、学生にとってもなかなか経験できない機会だったのだと思います。ただ、コロナ禍なので仕方ありませんが、オンライン上での開催が多かったと思いますので是非次年度以降は直に体験できるようにしていただければと思います。オンライン上では、伝わりにくい様々なことを発信し福島市の魅力の深掘り、そして発展へとつなげていければと思います。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。(伊藤様)

・昨年度に続き、令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響を強く受け、活動に制限が生じる状況ではありましたが、昨年度の経験を踏まえ、本年度は新型コロナの感染状況を見極めイベント実施時期を延期するなどの流動的対応を行ったこと、リモートによるミーティング開催やオンライン公開講座の拡充、さらには本プラットフォームのウェブサイトの構築、公式Twitterアカウントを取得するなど、「withコロナ」「コロナに負けない活動」を念頭にした活動を展開したことで、相応の結果が得られたと判断します。担当の皆さまのご努力に敬意を表します。

令和4年度は新型コロナが収束し、多くのリアルミーティング開催が可能となることを祈念しますが、先行きは不透明な部分が多いことから、イベント開催についてのさらなる工夫やオンライン公開講座・ウェブサイトのアクセス向上策展開などにより、当プラットフォームの活動効果がより大きく発揮することを期待いたします。ありがとうございました。(佐山様)

・コロナ渦にもかかわらず、取り組みを充実しており高く評価いたします。なお、銀座ミツバチプロジェクトなどとの共催も実施し、地域の経済界の方々にもPRする機会を多く設けたことも素晴らしいと思います。(渡辺様)

・終息の見えないコロナ禍の中、今年度もご苦勞の多い一年だったことと思います。

そんな中でも、4つのプロジェクトチームでの活動の実施を、その時の状況に合わせて確実に実施されていたので、これからの成果につながっていくことと思いました。特にコロナ禍では、オンラインの活用が必須になり、それを事務局の皆様が先駆的に取り入れて実施されているので、評価する立場の自分自身もオンラインやウェブサイト等の知識や学びを深めていかなければならないとあらためて反省しました。

アンケートについて 保育施設においてもWEBアンケートの協力要請が多く寄せられるようになりました。研究に活かして頂けるよう協力したいと考えていますが、保育施設の事務量がコロナ関係でも増大していて、特に年度末はアンケートまでには手が回らないのが実情ではないかと思えます。成果を上げるためにも、実施の時期等検討して頂きたいと思いました。又、行政や保育施設からも協力依頼を併せて出すこともできると思いました。(山崎様)

福島市産官学連携プラットフォーム

外部評価委員会実施要領

1. 趣旨

福島市産官学連携プラットフォーム外部評価委員会（以下「外部評価委員会」という。）は福島市産官学連携プラットフォームの実施する事業（以下「プラットフォーム事業」という。）の評価を適切に行うため、評価の実施に関し必要な事項を定める。

2. 評価の目的

外部評価委員会が行う評価は、プラットフォーム事業の自主的な事業運営の見直しや改善を促し、当該事業の質の向上、事業運営の効率化の確保に資することを目的とする。

3. 評価の基本方針

評価は、次の基本方針により行うものとする。

- ①事業評価は、中長期計画の達成に向けた業務の進捗状況を確認する観点から行う。
- ②その他、事業内容の適切性と福島市という地域への貢献度等の観点からも評価する。

4. 評価の実施方法

評価は、おおむね年1回開催する外部評価委員会により下記の通り実施する。

- ①評価にあたり事務局は当該年度の事業報告書をまとめ、その他必要に応じ資料を添付し外部評価委員会に提出する。
- ②外部評価委員はその事業報告書及び事務局への聞き取り等により、当該年度の事業を前項「3. 評価の基本方針」の観点から評価する。
- ③事務局はその評価意見をまとめ、プラットフォーム連携推進会議にて報告する。

5. 外部評価委員の人数・任期

外部評価委員は3人以上とし、任期は委嘱年度から2年とする。また再任については妨げない。

事務局については、桜の聖母短期大学及び福島学院大学において実施します。

以上